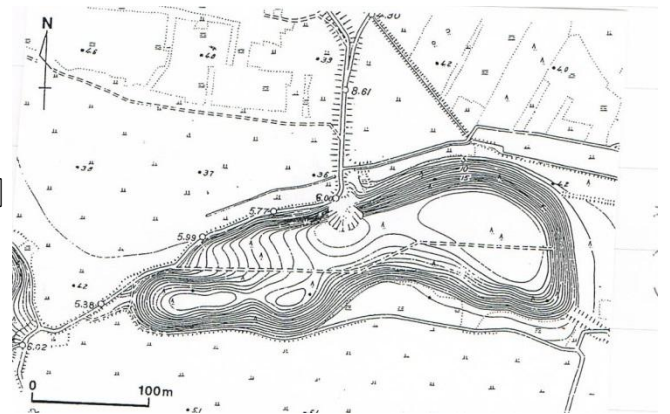


わが街・わが地域の史跡・遺跡を訪ねる(9)

一 新木野三丁目の龍崖城跡と布佐八景 一

我孫子市史研究センター 飯白 和子

●龍崖城跡 龍崖城りゅうがいというのは、新木野三丁目にかつてあった城のことです。昭和61年11月1日に住居表示法が執行されるまで新木野三丁目に字ハツ山と呼ばれていた地区がありました。このハツ山が龍崖城の跡といわれています。『千葉県東葛飾郡誌』(大正12年刊)には、「布佐城址」として「布佐町字龍崖山に古城址あり、土手及び空濠僅かに存して、東北南の三方水田をめぐらし西方細く沖田方面に接す」と記されています。江戸時代、宝暦13年(1763)の布佐村の「村鏡」にも「古城址 但シ東西四十四間、南北七間」とあり、いつ築城されたのか、城主などは不明であると記されています。城跡からは、3基の板碑が出土し、その中の1基には鎌倉時代末期の元亨2年(1322)7月日の年号が刻まれています。



龍崖城付近(昭和32年測量)
『我孫子市史・原始、古代、中世篇』648頁より

●谷ツ山権現 龍崖山には、谷ツ山権現やつさんが祀られていました。『相馬伝説集』(大正11年刊)には「龍毛山の東南崖に古色蒼然として石塔が二、三並んである。龍毛城主の墓と伝えている。古き五輪塔が一つと文化三年小山某の建立したる石塔二つありて谷ツ山権現と記してある」とあります。谷ツ山権現は、明治維新政府の政策で「総神社」と改称し、竹内神社に合祀されました。文化2年小山某の建立した石塔というのは、「當所靈場十九番谷山権現宮」と刻まれているもので「布佐靈場33ヶ所」の第19番札所塔のことです。



當所靈場19番ハツ山権現宮
(竹内神社在)

●布佐村靈場33ヶ所 文化2年(1805)2月に村内の小堂やお社やしるを靈場に見立てた「當所靈場33ヶ所」が創られました。発願主は、小山又左衛門隠居。「當所靈場」の内、2番は愛宕神社の傍に在った地藏堂、3番の愛宕神社、6番の字鹿黒畑2318番地にあった観音堂、7番の同所牛頭天王社、11番の天神宮、12番の白山権現宮、13番の第六天宮、16番の地藏尊、18番の道陸神、27番の神明宮、32番の諏訪宮、33番の水神宮の13か所が記録や石塔で確認できます。

●布佐八景 龍崖城跡は、布佐八景の一つ「龍崖の夕照」になっています。布佐八景というのは、布佐の勝景なる地8か所を瀟湘八景しょうしやうにならって七言絶句に詠じ八勝詩としたもので、①愛宕暮雪(愛宕ノ暮雪、現愛宕神社)、②刀寧帰帆(利根ノ帰帆)、③竹岱秋月(高台ノ秋月、もとの高台稻荷社)、④龍崖夕照(龍崖ノ夕照)、⑤西山暁鐘(西山ノ暁鐘、現西光山勝蔵院)、⑥鷺湖落雁(鷺湖ノ落雁、手賀沼のこと)、⑦千崎弧松(千ヶ崎ノ松、かつて三畝割堤の突端にあったという1本松)、⑧圪橋夜雨(圪橋ノ夜雨、三畝割堤と大割堤の切点のところに架かっていた土の橋)をいいます。

詩作は、布佐の医者、岡山宗作(号竹岱、明治8年5月12日没、51歳、幼名良吉)と松倉潜蔵(号厚載、明治32年2月10日没、56歳、もと佐倉藩堀田家家臣、初代布佐小学校長)の合作という。布佐八勝詩は、松倉潜蔵の書により、明治29年に布佐の榎本次郎右衛門家の新築された三層楼の楼閣に扁額として掲げられました。楼閣から八景が一望でき、亡友岡山宗作翁がこの眺めを見られないことを惜しんでいます。(引用：『市史資料金石文篇Ⅱ』『市史研究5・11号』)

新木近隣センターだより第203号は
平成28年3月19日(土)に発行します